

本山 美彦 教授 略歴

1943 (昭和18) 年 1 月 1 日 神戸市に本山照行・本山ツルヨの次男として生まれる (長男照美は夭逝)

学 歴

1949 (昭和24) 年 4 月 神戸市立西灘小学校入学
1955 (昭和30) 年 3 月 神戸市立西灘小学校卒業
1955 (昭和30) 年 4 月 神戸市立原田中学校入学
1958 (昭和33) 年 3 月 神戸市立原田中学校卒業
1958 (昭和33) 年 4 月 兵庫県立神戸高校入学
1961 (昭和36) 年 3 月 兵庫県立神戸高校卒業
1961 (昭和36) 年 4 月 京都大学経済学部入学
1965 (昭和40) 年 3 月 同・経済学科卒業
1965 (昭和40) 年 4 月 京都大学大学院経済学研究科修士課程理論経済史専攻入学
1967 (昭和42) 年 3 月 同・修了・経済学修士
1967 (昭和42) 年 4 月 京都大学大学院経済学研究科博士課程経済政策専攻進学
1969 (昭和44) 年 3 月 同・中退

職 歴

1969 (昭和44) 年 4 月 甲南大学経済学部助手に採用される
1970 (昭和45) 年 4 月 甲南大学経済学部講師に昇進
1973 (昭和48) 年 4 月 甲南大学経済学部助教授に昇進
1977 (昭和52) 年 3 月 甲南大学退職
1977 (昭和52) 年 4 月 京都大学経済学部助教授に採用される
1986 (昭和61) 年 7 月 同, 教授に昇進
現在に至る

学 位

1984 (昭和59) 年 3 月 京都大学経済学博士号 (論経博第52号) 博士論文『貿易論序説』

家族

- 1969(昭和44)年3月24日 久木初穂と結婚
1971(昭和46)年6月25日 長男泰一誕生
1973(昭和48)年3月25日 次男啓太誕生
1974(昭和49)年10月2日 三男亮太誕生

役職

- 1997(平成9)年4月 京都大学経済学部評議員 (1999年3月まで)
2000(平成12)年4月 京都大学大学院経済学研究科長 兼 経済学部長 (2002年3月まで)
1996(平成8)年10月 日本国際経済学会長 (1998年10月まで。現在, 同顧問)
2000(平成12)年7月 日本学術会議第18期第3部(経済・経営・会計)会員 (2003年7月まで)
1996(平成8)年10月 社団法人・国際経済労働研究所長 (2005年3月まで。現在, 同理事)
2005(平成17)年10月 独立中間法人・京都大学学術出版会理事長 (現在に至る)

本山 美彦 教授 著作目録

I 著 書

『世界経済論——複合性理解の試み——』	同	文	館	1976年4月
『貿易論序説』(学位論文)	有	斐	閣	1982年10月
『貨幣と世界システム——周辺部の貨幣史——』	三	嶺	書 房	1986年4月
『国際金融と第三世界』	三	嶺	書 房	1987年9月
『国際通貨体制と構造的権力——スーザン・ストレンジに学ぶ非決定の力学——』	三	嶺	書 房	1989年11月
『環境破壊と国際経済——変わるグローバルイズム——』	有	斐	閣	1990年4月
『南と北——崩れ行く第三世界——』	筑	摩	書 房	1991年8月
『豊かな国, 貧しい国——荒廃する大地——』	岩	波	書 店	1991年12月
『ノミスマ(貨幣)——社会制御の思想——』	三	嶺	書 房	1993年2月
『新・新国際分業と平成不況——社会のシステム断層とヴァーチュアル化——』	三	嶺	書 房	1994年5月
『倫理なき資本主義の時代——迷走する貨幣欲——』	三	嶺	書 房	1996年11月
『売られるアジア——国際金融複合体の戦略——』	新	書	館	2000年6月
『ドル化——米国金融覇権の道——』	シュプリングーフェアラーク	東京		2001年1月
『ESOP——株価資本主義の克服——』	シュプリングーフェアラーク	東京		2003年12月
『民営化される戦争——21世紀の民族紛争と企業——』	ナカニシヤ	出版		2004年10月

II 共 著

『南北問題をみる眼』(游仲勲, 徳永正二郎と共著)	有	斐	閣	1980年11月
『知的財産会計制度』	東京教育情報センター			2002年11月
『21世紀中小企業新会計制度』	東京教育情報センター			2003年3月

III 編 著

『貿易摩擦をみる眼』	有 斐 閣	1983年12月
『貿易論のパラダイム』	同 文 館	1987年 5月
『貨幣論の再発見』	三 嶺 書 房	1994年 4月
『開発論のフロンティア』	同 文 館 出 版	1995年 7月
『小野一一郎先生著作集 (全3巻)』	ミネルヴァ書房	2000年12月
『グローバリズムの衝撃』	東洋経済新報社	2001年 4月
『「帝国」と破綻国家——アメリカの「自由」とグローバル化の闇——』	ナカニシヤ出版	2005年 8月

IV 共編著

『世界経済論を学ぶ』(森田桐郎と共編)	有 斐 閣	1980年 3月
『南北問題の今日』(田口信夫と共編)	同 文 館	1986年 4月
『成熟世界のパラダイムシフト』(板東慧・小室豊允・井上宏・菊池光造と共編)	啓 文 社	1992年 8月

V 翻訳書

ドナルド・ウィンチ『古典派政治経済学と植民地』(杉原四郎と共訳)	未 来 社	1975年 2月
F. ヒルガート『工業化の世界史——1870～1940年までの世界経済の動態——』(山口和男・吾郷健二と共訳)	ミネルヴァ書房	1979年 3月
スーザン・ストレンジ『国際通貨没落過程の政治学——ポンドとイギリスの政策——』(矢野修一・高英求・伊豆久・横山史生と共訳)	三 嶺 書 房	1989年 3月
アンドリュウ・ウォルター『ワールドパワー&ワールドマネー——ヘゲモニーの役割と国際通貨秩序——』(監訳)	三 嶺 書 房	1998年 3月
ベンジャミン・コーヘン『通貨の地理学——通貨のグローバル化が生む国際関係——』(監訳)	シュプリングァー東京	2002年 6月

VI 論 文

古典派経済学研究の方法的諸問題——科学的経済学の成立条件——(教養部経済学研究会の名で執筆)	学 生 論 叢 第 1 号	1962年
古典研究の方法的諸問題	学 生 論 叢 第 3 号	1963年

後進国開発のための投資配分——マハラノビス理論の検討——	経済論叢 第101巻第6号	1968年6月
後進国開発における技術選択基準論——セン・モデルを中心として——	経済論叢 第102巻第1号	1968年7月
植民地スターリング為替本位制について——植民地通貨制度論争をめぐって——	経済論叢 第103巻第3号	1969年3月
経済成長と貿易	松井清編『日本貿易読本』東洋経済新報社	1969年3月
資本供給源としての英領植民地——インド残高をめぐって——	経済論叢 第103巻第4号	1969年4月
偽装失業の概念と、その計測——インド農業のケース・スタディ——	甲南経済学論集 第10巻第2号	1969年7月
資本自由化と産業再編成	松井清編『資本の自由化』有信堂	1970年5月
国際通貨基金の成立	松井清編『現代資本主義と国際通貨』法律文化社	1970年6月
自由貿易論と植民地論(その1)——コフデンとウェイクフィールド——	甲南経済学論集 第11巻第3号	1971年1月
自由貿易論と植民地論(その2)——ウェイクフィールドの貿易論①——	甲南経済学論集 第13巻第1号	1972年6月
自由貿易論と植民地論(その3)——ウェイクフィールドの貿易論②——	甲南経済学論集 第13巻第2号	1972年8月
イギリス資本主義の世界化とアジア——アヘンをめぐる東インド会社と広東商社の角逐——	小野一一郎・行沢健三・吉信肅編『世界経済と帝国主義』有斐閣	1973年5月
古典学派の植民地観	杉原四郎・菱山泉編著『セミナー—経済学教室2 経済学史』日本評論社	1974年7月
世界経済における複合性把握について——宇野弘蔵「世界経済論の方法と目標」を素材にして——	甲南経済学論集 第15巻第2号	1974年10月
いわゆる「世界市場創出傾向」について	甲南経済学論集 第15巻第3号	1974年12月
分業一般と国際分業との峻別について(上)	甲南経済学論集 第16巻第1号	1975年9月
分業一般と国際分業との峻別について(下)	甲南経済学論集 第16巻第2号	1975年11月
地域的多角決済から世界的多角決済への発展の論理(上)	甲南経済学論集 第16巻第3号	1976年1月
地域的多角決済から世界的多角決済への発展の論理(下)	甲南経済学論集 第16巻第4号	1976年3月
世界市場創設期におけるアジアの為替と信用——方法の問題——	甲南経済学論集 第17巻第1号	1976年6月

世界経済における複合性理解	国際経済 第27号	1976年11月
植民地幣制の起点 the Treasury Minute of 1825. について(上)——世界市場創設期におけるアジアの為替と信用——	経済論叢 第120巻第3・4号	1977年 9・10月
植民地幣制の起点 the Treasury Minute of 1825. について(中)——世界市場創設期におけるアジアの為替と信用——	経済論叢 第120巻第5・6号	1977年 11・12月
植民地幣制の起点 the Treasury Minute of 1825. について(下)——世界市場創設期におけるアジアの為替と信用——	経済論議 第121巻第1・2号	1978年 1・2月
The Oriental Bank Corporation, 1851-84年(上)	経済論叢 第121巻第4・5号	1978年 4・5月
The Oriental Bank Corporation, 1851-84年(中)	経済論叢 第121巻第6号	1978年6月
The Oriental Bank Corporation, 1851-84年(下)	経済論叢 第122巻第1・2号	1978年 7・8月
農業と南北問題	小野一一郎・吉信肅編『南北問題入門』有斐閣	1979年3月
南北問題へのアプローチ	小野一一郎・吉信肅編『南北問題入門』有斐閣	1979年3月
多角的貿易の型の発展	F. ヒルガート『工業化の世界史』(解説) ミネルヴァ書房	1979年3月
Currency Board System 生成の論理(上)	経済論叢 第123巻第4・5号	1979年 4・5月
Currency Board System 生成の論理(中)	経済論叢 第123巻第6号	1979年6月
Currency Board System 生成の論理(下)	経済論叢 第124巻第1・2号	1979年 7・8月
銀問題と為替本位制度の成立——インド・セイロン問題を事例として——	小野一一郎・吉信肅編『両大戦間期のアジアと日本』大月書店	1979年12月
1979年の経済学・世界経済——新貿易理論の胎動——	経済評論 第28巻第12号	1979年12月
比較生産費説・国際価値論・貿易利潤(上)	経済論叢 第125巻第1・2号	1980年 1・2月
比較生産費説・国際価値論・貿易利潤(中)	経済論叢 第125巻第3号	1980年3月
多国籍企業と第三世界——資源国有化の力学——	経済評論 第29巻第3号	1980年3月
80年代の国際政治経済	季刊・労働と経済(京都府労働経済研究所) No. 64	1980年3月

比較生産費説・国際価値論・貿易利潤 (下)	経 済 論 叢 第125巻第 5号	1980年 5月
危機下の80年代世界経済	社会主義と労働運動(社会主義 理論政策研究センター) Vol. 4, No. 5	1980年 5月
遊休労働力の圧力と第三世界 (利潤率と貿易) 理論の再考	経 済 評 論 第29巻第 9号 国 際 経 済 第31号	1980年 9月 1980年11月
国際経済の集团的もたれ合いの力学 ——安易な自由貿易規範への一批 判——	貿易と関税 第29巻第 6号	1981年 6月
南北問題の視角	小野一一郎編『南北問題の経済 学』同文館	1981年 6月
古典派理論への回帰——W・ルイ ス——	小野一一郎編『南北問題の経済 学』同文館	1981年 6月
新興工業国(NICs)をどうとらえる か(『貿易論序説』に編入)	国 際 経 済 第32号	1981年11月
ユーロ市場の肥大化と途上国——オフ ショア金融市場におけるショベリン グ・アウト機能とその受け皿——	経 済 評 論 第31巻第 1号	1982年 1月
金融の相互依存下の南北問題—— NIEOの理念を崩壊させた要因は 何か——	経 済 評 論 第31巻第 3号	1982年 3月
マルクスと第三世界	経 済 評 論 第32巻第 4号 (マルクス没後百周年記念号)	1983年 4月
GATTとNIEO	貿易と関税 第31巻第 5号	1983年 5月
マルクス主義と抑圧	書 齋 の 窓 No. 324 (没後100年目のマルクス, 特集)	1983年 5月
精神のひからび——敗者復活戦のマル クス——	思想の科学 No. 48	1984年 6月
不等価交換論と国際価値論	根岸隆・山口重克編『二つの経 済学——対立から対話へ——』 東京大学出版会	1984年 9月
リカードウ・リンボーについて——不 平等交易論の再発見——	大阪経大論集 第162・163号	1985年 3月
資本主義の「内」と「外」?	資本論体系・月報 No. 5, 第 8 巻付録	1985年 7月
不等価交換論と国際価値論	国 際 経 済 第36号	1985年10月
日本と第三世界	社会主義と労働運動 Vol. 9, No. 10	1985年10月
NICsと新従属理論	クライシス 第24号	1985年10月
中世イングランドの鑄貨	経 済 論 叢 第136巻第 4号	1985年10月
シンガポールのリストラクチャリング	経 済 評 論 第35巻第11号	1986年11月

債務の株式化とセキュリタイゼーション	経 済 評 論 第35巻第12号	1986年12月
メーカーのオルガナイザー化と資金フロー	経 済 評 論 第36巻第1号	1987年1月
関西経済の展望と課題	大阪労働(大阪労働協会) No. 455	1987年1月
金融 NICs 化現象	経 済 評 論 第36巻第2号	1987年2月
経済学とは何か	経済セミナー 第387号	1987年4月
国際的産業再編成と NICs	世界経済評論 Vol. 31, No. 4	1987年4月
マネー・ゲームの陥し穴——世界的株価高現象のもとで——	経 済 評 論 第36巻第4号	1987年4月
円高下の NICs・ドル大暴落の前夜	経 済 評 論 第36巻第5号	1987年5月
序章 貨幣管理不能の時代	労働調査時報 第42巻第5・6号	1987年 5・6月
現代の怪物・多国籍企業	いいだもも・伊藤誠・平田清明 編『いまマルクスが面白い』 有斐閣	1988年3月
スーザン・ストレンジの国際通貨論(1)	経 済 論 叢 第142巻第4号	1988年10月
地球経済を考える①消える森林資源——経済学的考察——	労働情報 Vol. 274	1988年11月
スーザン・ストレンジの国際通貨論(2)	経 済 論 叢 第142巻第5・6号	1988年 11・12月
地球経済を考える②消える森林資源——経済学的考察——	労働情報 Vol. 276	1988年12月
地球経済を考える③積み増しすぎた日本の金融資産(1)	労働情報 Vol. 280	1989年2月
地球経済を考える④積み増しすぎた日本の金融資産(2)	労働情報 Vol. 282	1989年3月
世界経済を変質させるアメリカの赤字体質	農業協同組合 Vol. 409	1989年3月
地球経済を考える⑤カジノ資本主義(1)	労働情報 Vol. 284	1989年4月
地球経済を考える⑥カジノ資本主義(2)	労働情報 Vol. 286	1989年5月
国際通貨ドルとカジノ資本主義	経済セミナー 第412号	1989年5月
円高の光と影——構造変化した世界経済の実相——	社会主義と労働運動 Vol. 13, No. 5	1989年5月
スーザン・ストレンジの国際通貨論(3)	経 済 論 叢 第144巻第1号	1989年7月
富の収奪と環境問題①	解放新聞 1433号	1989年 8月7日
富の収奪と環境問題②消える森林と砂漠化	解放新聞 1434号	1989年 8月14日
富の収奪と環境問題③生活基盤脅かされ	解放新聞 1435号	1989年 8月21日

地球的企業への挑戦——円高と貿易摩擦の衝撃——	岸本重陳・小沢雅子編『いま日本経済が面白い』有斐閣	1989年10月
ドイツ統一問題の現実的側面	労働調査時報 第45巻第3号	1990年3月
アリストテレスの表券貨幣説(1)	経済論叢 第145巻第4号	1990年4月
観念の支配①精神と社会の健康	食物と健康 第20巻第2号	1990年5月
アリストテレスの表券貨幣説(2)	経済論叢 第145巻第5・6号	1990年5・6月
観念の支配②精神と社会の健康	食物と健康 第20巻第3号	1990年9月
観念の支配③精神と社会の健康	食物と健康 第20巻第4号	1990年12月
観念の支配④精神と社会の健康	食物と健康 第21巻第1号	1991年3月
貧困と環境破壊の悪循環	世界経済評論 Vol. 35, No. 4	1991年4月
観念の支配⑤精神と社会の健康	食物と健康 第21巻第2号	1991年6月
地球環境問題への視点——過剰灌漑と世界的水不足——	貿易と関税 第40巻第7号	1991年7月
国際経済・社会のパラダイムシフト	労働調査時報 第46巻第9号	1991年9月
世界の水飢饉 (インドの例)	食物と健康 第21巻第3号	1991年9月
ポリティアの影絵	内山秀夫編『政治的なもの今』三嶺書房	1991年10月
G. マリーニズの外国為替論(1)	経済論叢 第148巻第4・5・6号	1991年10・11・12月
Regional Dreams and Global Economic Reality	<i>Kampo World Economy</i> , Vol. 2	1991年12月
ソ連の空想的資本主義と非同盟諸国	世界 第563号	1992年1月
G. マリーニズの外国為替論(2)	経済論叢 第149巻第1・2・3号	1992年1・2・3月
環境と開発のオルターナティブ——熱帯アフリカのダム建設を例に——	世界 第566号	1992年4月
焦点になる EC 市場争覇戦	労働調査時報 第47巻第4号	1992年4月
世界を覆う深刻な水危機——エネルギー問題を上回る人類の緊急課題——国際環境会議の一視点	世界週報 第73巻第18号	1992年5月12日
国際通貨制度史	社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』(社会経済史学会創立60周年記念) 有斐閣	1992年6月
環境問題と経済学——水管理見直しの視点から	潮 第399号	1992年6月
水資源開発に生活を破壊されるアジアの人々——国家的水争い、洪水、水不足、疫病、強制立ち退き	エコノミスト 第70巻第27号	1992年6月30日
深刻化する国際的水紛争	経済評論 第41巻第7号	1992年7月

外向的経済発展の反省——フィリピン の環境破壊を事例として——	貿易と関税	第41巻第7号	1992年7月
依存し合う世界——先進国主導の世界 システムの中で——	国際協力	第2695号	1992年10月
「新世界秩序」と南北問題	社会主義と労働運動	Vol. 16, No. 12	1992年12月
世界経済秩序のゆらぎ	『岩波講座・社会科学の方法 I ゆらぎのなかの社会科学』岩 波書店		1993年1月
平成不況の特徴——日本型経営の終り	酪農事情	Vol. 53	1993年2月
コーン・モデルをめぐるリカードウと スラフファ	愛媛経済論集	第12巻第2号	1993年2月
ミドルの受難	情 況	第4巻第3号	1993年3月
了解・形態・場——マルクスの世界経 済論の立場から——(特集・マルク ス経済学とは何であったか)	経済評論	第42巻第5号	1993年5月
EC型経済協力のアジア・太平洋地域 への適用の可能性を求めて	Int'lcowk	第48巻第5・6号	1993年 5・6月
南北問題に処方箋はあるか——EC型 経済協力の夢の実現に向けて	経済セミナー	第464号	1993年9月
マルク・マーケット・マーケット	学会会報	第801号	1993年10月
変貌する世界構造① 賭に近い最近の通 信機事業	情 況	第4巻第10号	1993年10月
中国の経済発展をどう見るか	Int'lcowk	第48巻第10号	1993年 10・11月
変貌する世界構造② 新・新国際経済秩 序と企業の選択	情 況	第4巻第11号	1993年11月
変貌する世界構造③ 倫理なき資本主義 の謎——中国の経済発展をどう見る か——	情 況	第4巻第12号	1993年12月
変貌する世界構造④ 環境と貿易——織 維協定(大憲章)とNAFTAを事例 として——	情 況	第5巻第1号	1994年1月
変貌する世界構造⑤ NAFTA 反対運 動の論拠	情 況	第5巻第2号	1994年2月
変貌する世界構造⑥ 生産基地の海外展 開のつけ——繊維産業を事例とし て——	情 況	第5巻第3・4号	1994年 3・4月
世紀末世界経済と太平洋地域	国際経済	第45号	1994年10月
マルクスの逆襲——世界経済における 貧困——	経済セミナー	第479号	1994年12月
Politics of Liberalization, A Japanese Perspective on APEC	AMPO: Japan-Asia Quarterly Review, Vol. 26, No. 4		1995年

世界経済のメガトレンド①倫理なき資本主義の時代——中国経済発展の衝撃(上)——	書 齋 の 窓	No. 442	1995年 3 月
世界経済のメガトレンド②倫理なき資本主義の時代——中国経済発展の衝撃(下)——	書 齋 の 窓	No. 443	1995年 4 月
世界経済のメガトレンド③倫理なき資本主義の時代——バーチャル企業とバーチャル労働(上)——	書 齋 の 窓	No. 444	1995年 5 月
世界経済のメガトレンド④倫理なき資本主義の時代——バーチャル企業とバーチャル労働(下)——	書 齋 の 窓	No. 445	1995年 6 月
世界経済のメガトレンド⑤倫理なき資本主義の時代——債務危機・金融恐慌(上)——	書 齋 の 窓	No. 446	1995年 7・8 月
世界経済のメガトレンド⑥倫理なき資本主義の時代——債務危機・金融恐慌(下)——	書 齋 の 窓	No. 447	1995年 9 月
世界経済のメガトレンド⑦倫理なき資本主義の時代——金融のカオス(上)——	書 齋 の 窓	No. 448	1995年10月
三極化する国際通貨体制——国際金融における市場と権力の間——	国 際 経 済	第46号	1995年10月
世界経済のメガトレンド⑧倫理なき資本主義の時代——金融のカオス(下)——	書 齋 の 窓	No. 449	1995年11月
世界経済のメガトレンド⑨倫理なき資本主義の時代——日本のアイデンティティ——	書 齋 の 窓	No. 450	1995年12月
APEC を問う	Int'lecowk	第50巻第12号	1995年12月
日本の GATT 加盟の経験から見た中国の GATT 復帰問題①	Int'lecowk	第51巻第 1 号	1996年 1 月
世界経済のメガトレンド⑩・完 阪 神・淡路大震災、一年後に思う	書 齋 の 窓	No. 451	1996年 1・2 月
日本の GATT 加盟の経験から見た中国の GATT 復帰問題②	Int'lecowk	第51巻第 2 号	1996年 2 月
金融的ヒエラルキーと過剰金融	経 済 論 叢	第157巻第 3 号	1996年 3 月
不良債権問題に見るシステム断層①	情 況	第 7 巻第 6 号	1996年 6 月
世界経済における貧困	伊藤誠・野口真・横川信治『マルクスの逆襲——政治経済学の復活——』日本評論社		1996年 6 月
基軸通貨国ビナイン・ネグレクト論の系譜	経 済 論 叢	第158巻第 1 号	1996年 7 月
不良債権問題に見るシステム断層②	情 況	第 7 巻第 7 号	1996年 7 月

ウォルターのヘゲモニー不存在論—— 国際金本位制と英国——	経 済 論 叢	第158巻第2号	1996年8月
両大戦間期ヘゲモニー大空位論—— ウォルターの批判——	経 済 論 叢	第158巻第3号	1996年9月
資源と持続可能な発展	国 際 経 済	第47号	1996年9月
東アジアの経済成長と日本	月刊フォーラム	第8巻第11号	1996年11月
国際金融市場の統合化と国際通貨の動 揺	調 査 と 研 究	第12号	1997年1月
小野一郎先生の学風	経 済 論 叢	第159巻第3号	1997年3月
経済学から見たロマン・ロラン——戦 間期のリベラル—— (ロマン・ロラ ン生誕130年記念)	ユニテ (ロマン・ロラン研究所) 第24巻		1997年3月
IMF 設立時の『制限されたリベラリ ズム』	経 済 論 叢	第160巻第2号	1997年8月
米国の凋落と複数基軸通貨制度の可能 性	経 済 論 叢	第160巻第3号	1997年9月
システム断層に苦しむ日本と不安定な アジア経済	東亜経済研究	第56巻第3号	1997年11月
アジア通貨安定協力と日本の課題	Int'lecowk	第53巻第1号	1998年1月
日本経済のシステム危機——止まらぬ 資金流出—— (特集 崩壊する「日 本的システム」)	情 況	第9巻第7号	1998年7月
資本自由化の落とし穴——アインッ ヒ、伊東光晴、バグワッチに学ぶ —— (1998年の世界経済を展望す る)	世界経済評論	Vol. 42, No. 7	1998年7月
アジア通貨危機——その要因としての 日本——	Int'lecowk	第53巻第9号	1998年9月
アジアの通貨危機と日本の金融危機	Int'lecowk	第53巻第9号	1998年9月
高負債・資本比率経済とアジアの危機	経 済 論 叢	第162巻第4号	1998年10月
世銀・IMF のパラダイム維持	調 査 と 研 究	第16号	1998年10月
国際金融複合体——R. ウェードの世 銀論に学ぶ——	経 済 論 叢	第162巻第5・6号	1998年 11・12月
浮動的短期外資規制の模索 (特集・ 1999年の世界経済を展望する)	世界経済評論	Vol. 43, No. 1	1999年1月
安定的な産業金融システム構築目指す アジア (特集 '99年の経営環境を考 える)	商工ジャーナル	第25巻第1号	1999年1月
〈マネー敗戦〉のあとで (特集 金融と は何か——その歴史と現在)	大 航 海	No. 27	1999年4月
短期外資流入規制の模索	経 済 論 叢	第163巻第5・6号	1999年 5・6月

スーザン・ストレンジ——国家と経済 —— (特集・知の先端の18人)	大 航 海	No. 28	1999年 6 月
韓国財閥解体圧力と米国「マクロ派」 の影	Int'lecowk	第54巻第 8 号	1999年 8 月
米国企業に飲み込まれる韓国 (特集 朝鮮——その歴史的現在)	大 航 海	No. 30	1999年10月
売られるアジア (特集 21世紀に向け た世界経済の展望と課題)	Int'lecowk	第55巻第 3 号	2000年 3 月
(ニューバースペクティヴズ) アジア 経済の破壊者はだれか	大 航 海	No. 33	2000年 4 月
売られる『ニッポン』	諸 君	第32巻第 8 号	2000年 8 月
これでいいのか?——倫理なきグロー バリズム—— (特集 戦争する国民 意識)	飛 礫	第28巻	2000年 9 月
20年不況の真相	諸 君	第32巻第 9 号	2000年 9 月
米『ニューエコノミー』の終焉	諸 君	第33巻第 4 号	2001年 4 月
流動性としての貨幣——貨幣中立論批 判——	経 済 論 叢	第168巻第 2 号	2001年 8 月
はげたか金融に依存する不良債権処理 (特集・世界経済の現状と課題—— 日本・中国の政治経済の展望と課 題)	Int'lecowk	第56巻第 8 号	2001年 8 月
コメ輸入自由化圧力の背景 (特集・食 から見た21世紀の課題——日本の食 はこれでいいのか)	学 術 の 動 向	第 6 巻第10号	2001年10月
金融統合と権力	経 済 論 叢	第168巻第 5・6 号	2001年 11・12月
中世西ヨーロッパの内生的貨幣	経 営 と 経 済	第82巻第 1 号	2002年 6 月
銀行学派の再評価——松井均著『銀行 原理と国際通貨システム』に関説し て——	世界経済評論	Vol. 46, No. 6	2002年 6 月
竹中平蔵の経済観を批判する	飛 礫	第36巻	2002年10月
R. トリフィンの再評価に向けて—— 松井均氏に問う——	世界経済評論	Vol. 46, No. 11	2002年11月
世界に発信する日本型会計文化の創造 へ——日本がモデルとする『アメリ カ型会計制度』は本当に信用できる のか?——	本山美彦ほか『知的財産会計制 度』東京教育情報センター		2002年11月
日本経済再生はまず中小企業の再建か ら——東京地区と大阪地区等の 例——	本山美彦ほか『中小企業新会計 制度』東京教育情報センター		2003年 3 月
米国型企業統治の対極にある米国巨大 企業=ベクトル社	Int'lecowk	第58巻第10号	2003年10月

ストック・カレンシー克服の道——L.ケルソンのESOP論——	世界経済評論	Vol. 47, No. 10	2003年10月
アメリカの新しい軍産複合体——PMCsとペンタゴン——	世界経済評論	Vol. 47, No. 12	2003年12月
グローバル化のブーメラン効果——労働の破壊——	世界経済評論	Vol. 48, No. 1	2004年1月
ストック・カレンシー(株式交換)に関する米国の対日圧力	経済論叢	第173巻第1号	2004年1月
イラク侵攻と軍産複合体	甲南経済学論集	第44巻第4号	2004年3月
泥沼のイラクとユーロ・ドル・円	Int'lecowk	第59巻第5・6号	2004年 5・6月
アバブ・ザ・ライン——基軸通貨の根拠とドル化——	現代思想	第32巻第9号	2004年8月
アラブの惨状と軍事請負企業の蹉跌	世界経済評論	Vol. 48, No. 8	2004年8月
ペンタゴンとウォルマートが強制する無線ICタグの恐怖	SD 21 (Social Democratic 21) 月刊社会民主	No. 594	2004年11月
ビン・ラディン・コネクション	世界経済評論	Vol. 48, No. 12	2004年12月
「市場」か「社会」か?——EUの経済・環境・人権政策に關説して——	春秋	会報第71号	2004年12月
ウクライナ内紛を通して見る拡大EUの史的意義	春秋	会報第71号	2004年12月
アフガニスタン再建の躓きの石——麻薬取引のグローバル化——	立命館経営学	第43巻第5号	2005年1月
ゲーティッド・コミュニティ——グローバル化の「内」を守る「安全ビジネス」——	世界経済評論	Vol. 49, No. 3	2005年3月
中国工会と労働争議——中国における反日運動の背景を探る——	Int'lecowk	第60巻第5・6号	2005年 5・6月
M&Aと株式分割	Int'lecowk	第60巻第9号	2005年9月
『民営化する戦争』と『安全ビジネス』の暴走	人権と部落問題	第57巻第10号	2005年9月

VII エッセー

きざみこまれた青春	『一粒の麦』(大山健一追悼集) 黒野精版株式会社	1977年4月
11の石を捨てる	神戸新聞	1974年 4月10日
日本経済過疎化のおそれ	兵庫県嬉野公民研修所『講義抄録』	1978年3月
困ること	書標(ジュンク堂書店) No. 5	1979年2月
一喝	『山口和男先生追悼集』アイシー印刷株式会社	1987年4月

(巻頭言) 社会ルールの日常化	大阪労働 (大阪府)	1989年 8月
大学改革に対してすねている経済「学」徒のぼやき	私学公論 Vol. 22, No. 5	1989年10月
経済学を学ぶために (京都大学経済学部スタッフのプロフィール)	京都大学経済学部	1990年
ソ連市場経済移行の盲点	東京新聞, 中日新聞	1991年 9月12日
ネゲブと CARE への期待	思想 816号	1992年 6月
放送と金融パニック	放送文化 (NHK) 1995年11月号	1995年11月
APEC と農業	京都新聞	1995年 11月 7日
(この一冊が経済学への扉を開けた) A. ウォルター 『ワールドパワー&ワールドマネー』三嶺書房	実業の日本 Vol. 99	1996年 4月
私を支えた『人間の顔をした』学問 (特集 経済学と出会う)	経済セミナー 第495号	1996年 4月
(わたしの視点) ダム・堰を考える①	毎日新聞	1996年 11月12日
(わたしの視点) ダム・堰を考える②	毎日新聞	1996年 11月13日
(巻頭言) 『世界経済評論』500号を祝う	世界経済評論 Vol. 41, No. 4	1997年 4月
(巻頭エッセイ) エネルギー危機を上回る水危機	TECHNOLOGY FUTURE Vol. 4, No. 1	1998年 3月
(言・異議あり!) 『市場』崇拜の経済論壇	毎日新聞	2000年 10月14日
献辞 (渡邊尚教授記念號)	経済論叢 第167巻第3号	2001年 3月
学者が斬る・米テロは金融グローバリズムへの逆襲	エコノミスト 第79巻第41号	2001年 10月 2日
(学術の焦点) 自由貿易と保護貿易	学術の動向 第7巻第2号	2002年 2月
(巻頭言) 緊要な現実的為替レート決定論	世界経済評論 Vol. 46, No. 3	2002年 3月
エンロン破たん——米式スタンダードの末路—— (〈私の視点〉)	朝日新聞	2002年 3月22日
テロ後の米経済の行方——『つまみ食い社会』に——持続不可能な外資頼み (〈展望台〉)	京都新聞	2002年 4月 7日
ウォール街スキャンダルを生んだ男, ジャック・グラブマン	Int'lecowk 第57巻第9号	2002年 9月
国際経済ウォッチング(1)米国式スタンダードの重要な梃子=フォーリン・アフェアーズと米国外交問題協議会 (Council on Foreign Relations) (1)	Int'lecowk 第57巻第9号	2002年 9月

国際経済ウォッチング(2)米国における日本の企業統治(コーポレート・ガバナンス)見直しの機運=従業員の生き甲斐の確認の動き	Int'lecowk	第57巻第10号	2002年10月
国際経済ウォッチング(3)米国式スタンダードの重要な梃子=フォーリン・アフェアーズと米国外交問題協議会(Council on Foreign Relations) (2)	Int'lecowk 号	第57巻第11・12	2002年 11・12月
国際経済ウォッチング(4)米国の対中人脈形成努力——清華大学を例として——	Int'lecowk	第58巻第2号	2003年2月
国際経済ウォッチング(5)政治権力を握った巨大メディア (論考) イラク攻撃と国際金融	Int'lecowk 京都新聞	第58巻第3号	2003年 3月26日
国際経済ウォッチング(6)独キルヒメディアの破綻が意味するもの	Int'lecowk	第58巻第4号	2003年4月
国際経済ウォッチング(7)相次ぐ巨大メディア企業の突然死の意味	Int'lecowk	第58巻第5・6号	2003年 5・6月
国際経済ウォッチング(8)ニューヨーク・ヤンキースに見る放送メディアのいま	Int'lecowk	第58巻第7号	2003年7月
国際経済ウォッチング(9)イラク攻撃の大義をめぐる疑惑	Int'lecowk	第58巻第8号	2003年8月
国際経済ウォッチング(10)イタリアの新メディア法(ガスパリ)を危惧する	Int'lecowk	第58巻第9号	2003年9月
株式交換(ストック・カレンシー)を基礎とする株価資本主義の危うさ	第18期日本学術会議第3部・技術移転研究連絡委員会『国際技術移転の実践的・理論的課題——移転と需要の論理——』		2003年10月
(巻頭言) 生きがいと働きがいのある職場, 元気のでる中小企業	中小商工業研究	第77号	2003年10月
国際経済ウォッチング(11)ストック・カレンシー(株式交換)拡大に関する米国の対日圧力	Int'lecowk 号	第58巻第11・12	2003年 11・12月
国際経済ウォッチング(12)「ウォルマート化」について	Int'lecowk	第59巻第1号	2004年1月
国際経済ウォッチング(13)サダム・フセインの世界史的意義	Int'lecowk	第59巻第2号	2004年2月
国際経済ウォッチング(14)敵対的 TOB(株式公開買付)と ESOP	Int'lecowk	第59巻第3号	2004年3月
国際経済ウォッチング(15)ディズニー社 CEO アイズナーの蹉跌	Int'lecowk	第59巻第4号	2004年4月
国際経済ウォッチング(16)反英米枢軸の浮上	Int'lecowk	第59巻第7号	2004年7月

国際経済ウォッチング(17)アラブの石油を握るハリバートンの回転ドア人脈	Int'lecowk	第59巻第8号	2004年8月
国際経済ウォッチング(18)ペンタゴンとウォルマート	Int'lecowk	第59巻第9号	2004年9月
国際経済ウォッチング(19)闇経済のグローバル化——激増する麻薬取引——	Int'lecowk	第59巻第10号	2004年10月
(論考) 石油価格高騰と日本経済——原油先物取引・大やけどの恐れ——	京都新聞		2004年 10月29日
国際経済ウォッチング(20)無線 IC タグを巡る日米の角逐——第2のトロロン紛争か——	Int'lecowk 号	第59巻第11・12号	2004年 11・12月
イラク情勢・戦争の民営化に目向けよ	朝日新聞		2005年 5月14日
進む暴力の私営化——イラク戦争の歴史的意义を問う (文化)	京都新聞		2005年 5月20日
Lawless private militaries milking Iraq conflict (Opinion: point of view)	<i>International Herald Tribune</i>		2005年 5月31日
戦闘請負会社の持つ意味——兵士のグローバル化——	労働情報	672号	2005年6月
イラク戦争と軍事請負会社 (前編)	派兵 Check	no. 153	2005年6月
戦闘請負会社 (PMC) の持つ意味——米軍再編との関連で——	京都民報	第2187号	2005年 6月12日
戦争をビジネス化した民間軍事会社 (学者が斬る, シリーズ217)	エコノミスト	第83巻第33号	2005年 6月14日
暴力民営化の時代——「軍事請負会社」とは何か—— (世界の潮)	世界	第741号	2005年7月
すすむ「戦争の民営化」——戦争請負企業の暗躍に注目	「現代の万葉集」編集委員会『不戦の願い——憲法の心』(現代の万葉集・巻の1) 憲法9条・メッセージ・プロジェクト		2005年7月
イラク戦争と軍事請負会社 (後編)	派兵 Check	no. 154	2005年7月
戦争の民営化(上)	ふえみん	第2764号	2005年 7月15日
戦争の民営化(下)	ふえみん	第2765号	2005年 7月25日

VIII 講演要旨掲載

「いま日本経済摩擦を考える」第4回公開講座・講演要旨集 (経済・文化セミナー) 大阪経済大学公開講座委員会	1986年11月27日
「日本経済の現状と世界の展開——地球経済 (グローバルエコノミー) への転換——」中小企業経営者能力開発セミナー(1), 中小企業大学校関西校, 中小企業事業団, 講演要旨	1989年7月6日

「ストック・カレンシイと ESOP——アメリカのコーポレート・ガバナンス問題——」立命館大学社会システム研究所主催、BKC 開設10周年記念・学術公開講演会『ROSSI 四季報』Rits 特別号、2004年3月

2003年11月6日

IX 論争・コメント

- | | | |
|--|---|----------|
| 第28回国際経済学会、共通論題、アジア経済の新動向、予定討論 | 国際経済 第21号 | 1970年9月 |
| 徳永正三郎の報告、世界市場恐慌と国際的信用制度、へのコメント | 国際経済 第30号 | 1979年11月 |
| 第20回経済理論学会、共通論題、現代資本主義と国家、予定討論 | 経済理論学会編『現代資本主義と国家』（経済理論学会年報第17集） | 1980年9月 |
| 毛利健三の報告、経済史学と第三世界、へのコメント | 高橋彰・森田桐郎・土屋守章・浜田宏一・原朗編『第三世界と経済学』東京大学出版会 | 1982年2月 |
| 川本忠雄の報告、米国・世銀援助の新路線と東南アジアにおける緑の革命、へのコメント | 国際経済 第34号 | 1983年7月 |
| 中村哲の報告、〈近代世界史像の再検討〉をめぐるシンポジウムでの予定討論 | 新しい歴史学のために 第174号 | 1984年5月 |
| 伊藤元重・清野一治の報告、戦略的輸出振興政策と経済厚生——ラーナーの対称定理再考へのコメント | 国際経済 第35号 | 1984年9月 |
| 木下悦二・本山美彦往復書簡1、〈資本主義固有の法則〉理解への疑問 | 書斎の窓 No. 349 | 1985年11月 |
| 木下悦二・本山美彦往復書簡3、世界の客観認識と思想 | 書斎の窓 No. 352 | 1986年3月 |
| 木下悦二・本山美彦往復書簡5、マルクスの国際経済論の反省 | 書斎の窓 No. 354 | 1986年5月 |

X 対談

- | | | |
|---|---------------|----------|
| マルキシズムの再生は可能か——〈知〉のパラダイム転換は可能か（吾郷健二と対談） | 現代の眼 第22巻第6号 | 1981年6月 |
| 南北〈問題〉とは何なのか（馬場宏二と対談） | 経済評論 第33巻第2号 | 1984年2月 |
| マルクス経済学の新地平（伊東光晴と対談） | 経済セミナー 第383号 | 1986年12月 |
| アジア NIEs と開発経済学（本多健吉・劉進慶と対談） | 経済評論 第37巻第11号 | 1988年11月 |

- | | | | |
|--|-----------------|-------------|-----------------|
| シンクタンクのあり方と研究所のこれから (社団法人・国際労働研究所発足記念座談会) (崎山耕作・板東慧と鼎談) | Int'lecowk | 第48巻第5・6号 | 1993年
5・6月 |
| 阪神大震災のインパクト——さらけ出された問題点, 危機管理と神戸の復興をめぐって (小室豊允・板東慧と鼎談) | Int'lecowk | 第50巻第5・6号 | 1995年
5・6月 |
| 『アジアの時代』再考 (近藤三津枝と対談) | しびる (日本土木工業協会) | Vol. 13 | 1996年11月 |
| 大震災1000日目提言に向けて・第2回震災復興トーク (後編) | Int'lecowk | 第52巻第9号 | 1997年9月 |
| 20年不況の真相——仕掛け人はアメリカかだ—— (吉川元忠・春名幹男と鼎談) | 諸君 | 第32巻第9号 | 2000年9月 |
| アメリカの犯罪 (吉川元忠と対談) | 大航海 | No. 36 | 2000年10月 |
| ドルに振り回される円・日米『抱き合い心中』への道行 (榊原英資・丹羽春喜・浜田和幸と座談) | 諸君 | 第34巻第11号 | 2002年10月 |
| 小泉内閣の評価と今後の政局 (特集 小泉内閣の評価と今後の政局) (小室豊允・板東慧と鼎談) | Int'lecowk | 第58巻第1号 | 2003年1月 |
| 総選挙に向けて——小泉政権の2年半をどのように評価するか—— (小室豊允・板東慧と鼎談) | Int'lecowk
号 | 第58巻第11・12号 | 2003年
11・12月 |
| 2005年の世界と日本を読む——アメリカ・ブッシュ大統領の再選をうけて—— (小室豊允・板東慧と鼎談) | Int'lecowk | 第60巻第1号 | 2005年1月 |
| 市場の中で, 日本社会はどう変化したか? アメリカ型「競争市場」or EU型「社会的市場」EU政策を見てみよう (春秋会座談会) (山崎敏彦・鎌田幸夫・雪田樹理・峯本耕治・福田健次と) | 春秋 | 会報第72号 | 2005年3月 |
| 新時代のアジア政治経済——ASEANと中国を中心に—— (桐生稔・板東慧・横田高明と座談会) | Int'lecowk | 第60巻第5・6号 | 2005年5月 |

XI シンポジウム・講演

- | | |
|---|--------------------|
| 「資本市場の韓日比較」報告, 慶北大—京都大 共同学術シンポジウム『韓日資本主義の比較』(大邱)『慶北日報』 | 1989年12月9日
~10日 |
| 「中国の GATT 加盟問題——日本の経験から——」(日本国際交流センターにより派遣) 復旦大学, 上海外語学院, 北京大学, 北京外語学院で講演 | 1994年11月1日
~30日 |

- 「(パネル) 中国経済の光と影・アジア太平洋時代へのインパクト」報告, 阪南大学流通学部・経営情報学部開設記念国際シンポジウム (大阪国際交流センター) 1996年5月25日
- “Development of the Tumen River” 報告, 北東アジア国際地域開発に関する国際シンポジウム報告, 兼・座長 (韓国・慶州) 1996年12月19日
~21日
- “Recent Turmoil of the Asian Currencies” 報告, 韓国国際経済学会秋期全国大会 (韓国・ソウル) 1997年11月21日
- 「日本の金融危機とアジア」報告, 慶北大ー京都大共同学術シンポジウム, 『世界資本主義の変動と東アジア経済危機』 (韓国・大邱) 1998年5月15日
- 「アジア通貨危機をどうみるか」報告, 日本国際経済学会・会長講演 (関東学院大学) 1998年10月24日
- 「世銀『東アジアの奇跡』の顛末」報告, アジア政経学会基調講演 (京都大学) 1998年11月2日
- 「世銀『東アジアの奇跡』をめぐって——アジアの危機をどう捉えるか——」報告, 大阪経済法科大学公開講座『東アジアの発展と共生をめぐって』 (大阪・御堂会館) 1999年2月13日
- 「21世紀のアジア——経済危機を超えて——」 (京都大学経済学部創立80周年記念・国際シンポジウム) 総合司会 (都ホテル) 1999年10月2日
- “Asian Economic Crisis,” 日本国際経済学会国際シンポジウム議長 1999年10月22日
- 「情報技術革新と国際経済」報告, 日本学術会議第3部・大阪シンポジウム『情報技術革新と経済・社会』 (大阪工大摂南大学創立60周年記念館) 2002年7月12日
- 「中央アジアをめぐる最近の国際政治関係」日本学術会議主催シンポジウム, 日本国際経済学会・日本貿易学会共催, 大阪産業大学協賛, 開会の辞 2002年11月22日
- 「ヒューマン・セキュリティの確保をめぐる研究——中央アジア, 中東の戦禍と社会復興の方途を考える——」 学術の動向 第8巻第11号 2003年11月
日本学術会議国際経済研究連絡委員会の活動から——」報告
- 河上肇・記念シンポジウム「中国と日本の政治経済学」 (京大100周年記念ホール) 2005年3月16日
- 京都大学上海センター・シンポジウム「日中間の“政冷経熱”をどう打開するか」総合司会, 主催: 京都大学経済学研究科上海センター (京都大学時計台記念館百周年記念ホール) 2005年7月1日

XII 書評

- シャルル・ベトウレイム著, 梅津和郎 経済論叢 第104巻第1号 1969年7月
訳『経済開発と計画』
- アルフレッド・メイズルス著『発展途上国の輸出と経済成長』 国際経済 第21号 1970年9月
- 湯浅起男著『第三世界の経済構造』 (著者への手紙) 現代の眼 第18巻第1号 1977年1月

- | | | |
|--|-------------------------|-----------------|
| 毛利健三著『自由貿易帝国主義』を読
んで』(レビュー・アーティクル) | 経 済 評 論 第27巻第10号 | 1978年10月 |
| 杉本昭七著『現代帝国主義の基本構
造』 | 経済学論集(東京大学) 第45巻
第1号 | 1979年4月 |
| 木下悦二著『国際経済の理論』 | 日本読書新聞 | 1980年
3月10日 |
| 吉信肅著『貿易論を学ぶ』に寄せて | 書 齋 の 窓 No. 324 | 1983年5月 |
| ポスト・コロニアル・エイジの選択
——本多健吉編著『南北問題の現代
的構造』によせて——(レビュー・
アーティクル) | 経 済 評 論 第33巻第5号 | 1984年5月 |
| 有賀定彦著『資本主義論序説』 | 世界経済評論 Vol. 28, No. 8 | 1984年8月 |
| 川北稔著『工業化の歴史的前提——帝
国とジェントルマン——』 | 日本読書新聞 | 1984年
8月27日 |
| 多様性の模索——本多健吉『資本主義
と南北問題』を読んで——(レ
ビュー・アーティクル) | 経 済 評 論 第35巻第7号 | 1986年7月 |
| 湯浅赳男『文明の「血液」新評論
——貨幣も進化する、象徴から記号
へと——』 | 朝日ジャーナル 1988年9月9
日号 | 1988年9月 |
| B. M. フリードマン著『アメリカ最後
の選択』——どうする大きいツケの
精算—— | 産経新聞(夕刊) | 1989年
3月7日 |
| 黒田壽郎編『イスラーム経済』三修社、
労働が資本の奴隷とならぬ『理想
郷』 | 朝日ジャーナル 1989年3月10
日号 | 1989年3月 |
| W. カール・ピブン著『誰がケインズ
を殺したか』 | 産経新聞(夕刊) | 1990年
4月24日 |
| I. M. デスラー& C. ヘニング著『ダ
ラー・ポリティックス・スードルをめぐ
るワシントンの政治構造』 | 産経新聞(夕刊) | 1990年
9月11日 |
| ジェームズ・K・ガルブレイス著『ア
メリカ経済の未来—均衡回復のため
の経済学』 | 産経新聞(夕刊) | 1990年
12月18日 |
| レギュラシオン派の金融危機論——ミ
シェル・アグリエッタ, アンドレ・
オルレアン著, 井上泰夫, 齋藤日出
治訳『貨幣の暴力』法政大学出版局,
1991年 | 週刊ポスト 1991年1月24日号 | 1991年1月 |
| ダニエル・バースタイン著『ユーロク
エイク』 | 産経新聞(夕刊) | 1991年
5月14日 |
| 福岡克也著『エコビジネスのすすめ』 | 産経新聞(夕刊) | 1991年
7月11日 |
| イマヌエル・ウォーラーズテイン著
『ワールド・エコノミー』 | 産経新聞(夕刊) | 1991年
7月23日 |

原洋之介著『アジア経済論の構図』	日本経済新聞	1992年 7月5日
坂東慧著『超国家の世紀——国民国家と市場の再編成』	Int'lecowk 第51巻第7号	1996年7月
森田桐郎著『世界経済論の構図』	書 斎 の 窓 Vo. 472	1998年3月
P. W. シンガー著, 山崎淳訳『戦争請負会社』日本放送出版協会	山陰新聞, 北國新聞, 秋田さきがけ, 高知新聞, 南日本新聞	2005年 2月6日
	日本海新聞	2005年 2月7日
	下野新聞, 岩手日報	2005年 2月12日
	岐阜新聞, 神戸新聞, 北日本新聞, 信濃毎日新聞, 神奈川新聞, 埼玉新聞, 山形新聞, 河北新報, 愛媛新聞, 熊本日日新聞	2005年 2月13日
	東奥日報	2005年 2月18日
	徳島新聞	2005年 2月20日
フィリス・ベニス, 南雲和夫・中村雄二訳『国連を支配するアメリカ——超大国がつくる世界秩序』	京都新聞	2005年 2月20日

XIII 小冊子

西宮市青果物等廉価販売事業に関する調査研究報告書	西宮市市民局社会経済部生活課	1975年10月
消費者価格発見の試み	神戸市市民局物価対策課	1976年10月
西宮市における物価情報システム樹立の展望	西宮市市民局社会経済部消費者センター	1977年7月
プロジェクト・ファイナンスと MA に関する理論的および実証的研究——国際金融の変化と NICs (昭和61年度科学研究費補助金・一般研究 C, 課題番号1530056)		1988年3月
流動するアジア——国家の生きる途と民衆の生きる途——	(NAW) アジア労働者情報交流センター・関西 (報告集 No. 11)	1994年3月
APEC とは何か? (共著)	アジア太平洋資料センター現代企画室	1995年11月

XIV 事典・辞典

「南北問題」(松井清と共同執筆)の項	『現代教養百科事典, I, 政治』 暁教育図書	1969年4月
--------------------	----------------------------	---------

「E. A. C. ウェイクフィールド」の項	大阪市立大学編『経済学辞典』 第2版 岩波書店	1979年6月
「国際経済学」, 「官僚資本」, 「民族資本」の項	『平凡社大百科事典』平凡社	1985年4月
「経済学……第三世界論の衝撃, 不等価交換論, 接合理論」の項	『平凡社1984年百科年鑑』平凡社	1985年4月
「経済学——南北問題」の項	『平凡社1987年百科年鑑』平凡社	1987年3月
「貨幣と儀礼」, 「管理通貨制度」, 「偽金作り」, 「金本位制」, 「銀貨」, 「退蔵」, 「代用貨幣」, 「通貨の名称」, 「銅銭」, 「藩札」, 「リアル」, 「フローリン」, 「ギニー」, 「小安貝」, 「貨幣制度」, 「デナリウス」, 「本位貨幣制度」, 「ドル」, 「複本位性」, 「古銭学」, 「金銀比価」, 「ドラクマ」, 「鑄造権」, 「重金主義」, 「小判」, 「マルク」, 「貨幣論」, 「刻印」, 「紙幣」, 「貨幣の形態」, 「象徴としての貨幣」, 「ポンド」, 「地金」, 「正貨」, 「金貨」の項	『歴史学事典』第X巻, 弘文堂	1994年11月
「外国貿易」, 「価格革命」, 「貨幣」	『新マルクス学事典』弘文堂	2000年11月
「南北問題」の項	『国際政治経済辞典』(改訂版) 東京書籍	2003年5月
「隠匿」, 「ギャンブル」, 「詐欺」, 「資本」, 「投機」, 「破産」, 「貨幣経済3(ヨーロッパの)」, 「貨幣政策3(ヨーロッパの)」	『歴史学事典』第13巻, 弘文堂	2005年11月
XV インタビュー		
ひと——新世紀——・南北問題	京都新聞	1986年 11月13日
教授徹底解剖学——おもしろ教授, ユニーク講座——	CAPLA 1989年5月号	1989年5月
人・ひと・ヒト 訪問記 フィリピンは好きこのんでバナナをつくっているのではない	解放新聞	1989年 7月3日
京都創生人——あすの1000人	京都新聞	1992年 4月14日
日本企業は『倫理なき資本主義の国』中国に翻弄されるな	実業の日本 Vol. 98	1995年9月
(おやとさあ) 逆転の発想で街づくり	西日本新聞 (夕刊)	2000年 6月8日
中国共産党政治局新態勢・どう見る・米との連携, 内外に宣言	京都新聞	2002年 11月16日

- | | | |
|---------------------------------------|---------------------------|----------------|
| 読書——ページの向こう・「民営化される戦争」の本山美彦さん経済からとらえる | 京都新聞 | 2004年
11月7日 |
| 日本の最大貿易相手国・米国から中国になった歴史的意味は？(特集WORLD) | 毎日新聞(夕刊, 東京本社版) | 2005年
2月10日 |
| 戦争ビジネスは、ここまで進んでいた! 民営化される戦争 | 月刊プレイボーイ(日本版)
2005年5月号 | 2005年5月 |
| 民間軍事会社が戦争を変える——国家が認めた暴力ビジネス(特集WORLD) | 毎日新聞(夕刊, 東京本社版) | 2005年
5月26日 |